

神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター 感染管理認定看護師教育課程

令和3年度 入学試験(追加募集) 学科試験問題

氏名	
受験番号 *下2ケタ	

令和3年1月26日(火)

9:40~10:40

問題用紙を確認してください。全部で9枚です。

表紙 1枚

問題 8枚

解答用紙は1枚です。

\*解答は解答用紙に記入してください。

\*試験終了後、用紙はすべて回収いたします。

I 以下の問いに答えなさい。

1. 免疫担当細胞とその機能の説明で正しい組合せはどれか。一つ選びなさい。
  - a ヘルパーT細胞・・・抗体の産生
  - b 肥満細胞・・・補体の活性化
  - c 好中球・・・貪食
  - d 形質細胞・・・抗原の提示
  
2. *Enterobacter cloacae*が常在細菌として存在する場所はどれか。一つ選びなさい。
  - a 大腸内
  - b 口腔内
  - c 膈内
  - d 皮膚
  
3. ワクチンの2回接種を推奨している感染症はどれか。一つ選びなさい。
  - a ジフテリア
  - b 破傷風
  - c 急性灰白髄炎
  - d 水痘
  
4. B型肝炎の患者の血液で床が汚染されたときに使用する消毒薬はどれか。一つ選びなさい。
  - a グルタラール
  - b 消毒用エタノール
  - c 次亜塩素酸ナトリウム
  - d ポビドンヨード
  
5. ケアに適した防護用具の使用について、適切でない組合せはどれか。一つ選びなさい。
  - a 陰部洗浄・・・ゴーグル、マスク、手袋、エプロン
  - b 食事介助・・・フェイスシールド、手袋、エプロン
  - c 足浴・・・なし
  - d 創傷処置・・・手袋

6. 感染症検査の検体採取の説明で正しいものはどれか。一つ選びなさい。
- a 発病初期の抗菌薬投与後に採取する。
  - b 検体の保管はすべて常温で行う。
  - c 検体は採取後から翌日までに提出する。
  - d 常在菌の混入を避ける。
7. 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律における3類感染症はどれか。一つ選びなさい。
- a 細菌性赤痢
  - b ジカウイルス感染症
  - c 結核
  - d ペスト
8. 感染症と感染予防策の正しい組合せはどれか。一つ選びなさい。
- a 水痘・・・・・・・・・・飛沫予防策
  - b 百日咳・・・・・・・・・・空気予防策
  - c 流行性耳下腺炎・・・・・・・・・・標準予防策
  - d 多剤耐性緑膿菌感染症・・・・・・・・・・接触予防策
9. エアレーションを必要とする滅菌法はどれか。一つ選びなさい。
- a 酸化エチレンガス滅菌
  - b 高圧蒸気滅菌
  - c 乾熱滅菌
  - d 過酸化水素滅菌
10. 擦式アルコール製剤による手指衛生をする場面として適切なものはどれか。一つ選びなさい。
- a カルバペネム耐性腸内細菌科細菌に感染した患者の清拭の後
  - b クロストリディオイデス・ディフィシル感染症患者の病室を出た後
  - c 流行性角結膜炎の患者の検温をした後
  - d 患者の吐物処理を終えて手袋を外した後

11. 医療関連感染サーベイランスについて正しいものはどれか。一つ選びなさい。
- a サーベイランスとは施設内外の資源を用いて問題を解決するプロセスである。
  - b 医療関連感染を判定するための定義はない。
  - c 全病院的に実施するサーベイランスは時間と労力の負担が少ない。
  - d 対象限定のサーベイランスは感染リスクの高い医療処置を受ける人を対象とする。
12. 流行性耳下腺炎について正しい記述はどれか。一つ選びなさい。
- a 病原体はスピロヘータである。
  - b 潜伏期間は1週間である。
  - c 感染症法では、5類感染症である。
  - d 最も多い合併症は心筋炎である。
13. 感染症と適応のある抗菌薬で正しい組合せはどれか。一つ選びなさい。
- a M R S A 感 染 症 ・ ・ ・ ・ ・ メ ト ロ ニ ダ ズ ー ル
  - b 結 核 ・ ・ ・ ・ ・ イ ソ ニ ア ジ ド
  - c 多剤耐性緑膿菌感染症 ・ ・ ・ ・ ・ テ イ コ プ ラ ニ ン
  - d ニューモシスチス肺炎 ・ ・ ・ ・ ・ セ フ ァ ズ リ ン

## II 次の文章を読み、適切な語句や数字を記入しなさい。

1. 標準予防策で感染性があるとみなす血液・体液・分泌物・排泄物は、総称して( ① )物質という。
2. 空気感染は、空気中で長時間にわたり感染性を維持する感染性病原体を含んだ( ② )をヒトが吸い込み発生する。
3. MSSAとは( ③ )黄色ブドウ球菌のことである。
4. スポルディングの分類において、消化器内視鏡は( ④ )に分類される。
5. スクリーニング検査の妥当性を示す言葉で、ある疾患について検査を行ったときに、疾患を持つ人のうち検査が陽性になる確率を( ⑤ )という。
6. 病原微生物を検出しようとして検体を採取する際に誤って本来関係のない菌が検体に紛れ込むことを( ⑥ )という。
7. ヒトとヒト以外の脊椎動物の双方が罹患する感染症のことを( ⑦ )感染症という。

### Ⅲ 以下の問いに答えなさい。

1. 職業感染予防に関する記述で正しいものはどれか。二つ選びなさい。
  - a 鋭利器材を取り扱う際に必ず手袋を着用する。
  - b B型肝炎ワクチン接種は血液体液曝露後のB型肝炎の感染を予防できる。
  - c 安全機構付き静脈留置針は針刺しのリスクになる。
  - d インフルエンザウイルスに曝露した医療従事者へ抗ウイルス薬を予防投与した場合、発症時の就業制限は不要である。
  - e N95マスクの大きさや形が自分の顔にあっているか確認するためにユーザーシールチェックを年に1回ていど定期的実施する。
  
2. 医療環境の感染対策の内容で、誤っているものはどれか。二つ選びなさい。
  - a 加熱式加湿器はレジオネラ属菌の細菌繁殖を起しにくい。
  - b 高頻度接触面は高水準消毒が推奨されている。
  - c 手術室は、室内を陰圧に管理する。
  - d クロストリディオイデス・ディフィシル感染症の患者の病室環境は、第4級アンモニウム塩による清掃・消毒を行う。
  - e 壁や窓の敷居のような手指の低頻度接触面は汚染した場合に清掃する。
  
3. 「カテーテル関連尿路感染予防のCDCガイドライン2009」の内容として、適切なものはどれか。二つ選びなさい。
  - a 患者の移送の際に、採尿バッグを臥床する患者の体の上に一時的であれば置いてもよい。
  - b カテーテルや採尿バッグの定期的な交換は推奨されていない。
  - c 細菌検査の尿検体を採取する場合は、採尿バッグの排出口から採尿する。
  - d 尿失禁のある患者のケアの代わりに尿道カテーテルは使用しない。
  - e 開放式導尿システムは尿路感染を低減させる。
  
4. 「手術部位感染予防のためのCDCガイドライン2017」において推奨されている対策で正しいものはどれか。二つ選びなさい。
  - a 全身麻酔の正常肺機能の患者では、手術直後の抜管のあとはFiO2を増加させる。
  - b 禁忌でなければグルコン酸クロルヘキシジンの消毒薬にて皮膚を消毒する。
  - c 手術前日に石鹸または消毒薬を用いたシャワーをするように患者に指導する。
  - d 除毛は手術前日まで行う。
  - e 周術期は低体温を維持する。

5. 「血管留置カテーテル関連感染予防のためのCDCガイドライン2011」において推奨されている対策で正しいものはどれか。二つ選びなさい。
- a 血管内留置カテーテルのドレッシングを交換するときは手指消毒をすれば手袋は不要である。
  - b 血管内留置カテーテルの挿入部に出血がある場合は滅菌透明ドレッシングを使用する。
  - c マキシマルバリアプリコーションに用いるのは、マスク、滅菌ガウン、滅菌手袋、全身用の滅菌ドレープである。
  - d 末梢静脈カテーテルは、熱感、圧痛、発赤がある場合は抜去する。
  - e 中心静脈カテーテルの留置には超音波ガイダンスを使用する。

**IV 次の文章を読み、正しい文章には○、誤っている文章には×をつけなさい。  
また、×の文章は、誤っている内容を抜き出し、正しい内容を書きなさい。**

1. インフルエンザウイルスにり患した人が感染力を示す期間は、成人では発症日から発症後約5日である。
2. アウトブレイクとは一定の期間内に特定の地域の特定の集団において同一の現象が通常予想されるよりも多く発生することである。
3. 体位変換をするために接触予防策を実施する患者の病室に入る場合は、手袋とサージカルマスクを着用する。
4. バクテロイデス・フラジリス、ボツリヌス菌、破傷風菌は、好気性菌に分類される。
5. 後天性免疫不全症候群の患者に対して接触予防策を適応する。
6. 咳エチケットのために咳のある患者と症状のない患者の間は3フィート（91.44cm）以上あける。

## V 次の事例を読み、問いに答えなさい。

10月18日の12時、感染管理担当看護師にA病棟の看護師長より「当病棟で4名の職員の感染性胃腸炎とみられる症状があり欠勤している。どう対応したらよいか」と相談があった。状況を確認したところ次のことがわかった。

- ・ 10月17日の朝、B看護補助者は嘔吐と下痢で欠勤した。その日の夜にC看護師が勤務中に病棟の職員用トイレで嘔吐し、下痢もみられたため帰宅した。
- ・ 10月18日の午前に、17日にD看護師と一緒に夜勤をしていたE看護師とF看護補助者が自宅で嘔吐と下痢を発症した。
- ・ 10月16日に入院したG氏60歳男性が、下痢による脱水の治療をしていた。10月16日にG氏の排泄介助をしたのが、B看護補助者とC看護師だった。
- ・ 10月18日にG氏にノロウイルス抗原検査を実施し陽性であった。

1. ノロウイルス感染症の説明について正しいものはどれか。一つ選びなさい。
  - a 夏季に流行する感染症である。
  - b ウイルスが乾燥すると感染性が失われる。
  - c ワクチンで予防可能である。
  - d 症状消失後も数週間は糞便中へのウイルス排出が続く。
2. 10月18日時点におけるA病棟の感染対策で最も適切なものはどれか。一つ選びなさい。
  - a G氏の排泄介助をした職員全員に対し就業を制限する。
  - b A病棟の職員用トイレを次亜塩素酸ナトリウムで消毒する。
  - c G氏が病室から出るときは手袋とガウンを着用してもらおう。
  - d G氏の食器を使い捨てに変える。
3. ノロウイルス感染症の予防策として適切でないものはどれか。一つ選びなさい。
  - a 流行時の全入院患者に対してノロウイルス感染症のスクリーニング検査を実施する。
  - b 下痢・嘔吐のある患者に接触した後は手洗いを実施する。
  - c ノロウイルスの流行期には次亜塩素酸ナトリウムを用いて環境清掃を行う。
  - d 吐物処理をする場合は、ガウン、マスク、フェイスシールド、手袋を装着する。



## VI 次の事例を読み、問いに答えなさい。

入院中のHさん（男性、75歳）は、脳梗塞のリハビリテーション中で、神経因性膀胱で尿道カテーテルを留置中である。12月1日に発熱し、恥骨上部の圧痛があり、膿尿にくわえ尿沈渣で白血球5 WBCs/HPF以上を認め、医師の診断は尿路感染だった。12月2日に尿培養検査の結果が判明し、多剤耐性アシネトバクターが検出された。

1. 多剤耐性アシネトバクターの説明で正しいものはどれか。一つ選びなさい。
  - a グラム陽性桿菌である。
  - b 感染経路は、接触感染である。
  - c 病原性は通常のアシネトバクターより強い。
  - d 感染症の治療にはカルバペネム系抗菌薬を使用する。
2. Hさんに行う感染対策として適切ものはどれか。一つ選びなさい。
  - a 病室の出入り口に消毒液を浸漬した足ふきマットを設置する。
  - b 病室から出るときに、ユニフォームへアルコールを噴霧し消毒する。
  - c 個室に移動する。
  - d 膀胱洗浄をする。
3. Hさんと同室の患者5名の尿培養検査を実施したところ、3名から多剤耐性アシネトバクターが検出しました。病院の感染対策で誤っているものはどれか。一つ選びなさい。
  - a 集団感染と判断し、疫学調査を開始した。
  - b 保健所に報告・相談した。
  - c 病棟のすべての患者に対して多剤耐性アシネトバクターの積極的監視培養を実施した。
  - d 多剤耐性アシネトバクターが検出した患者を、病棟内のESBL産生菌の検出した患者と同室隔離した。
4. 後日、環境培養をしたところ、経腸栄養に使用するイルリガートルとチューブから多剤耐性アシネトバクターが検出された。経腸栄養の器材の使用後の洗浄・消毒の方法で適切なものはどれか。一つ選びなさい。
  - a 次亜塩素酸ナトリウムに浸漬 → 水ですすぐ → 乾燥機で乾燥
  - b 中性洗剤で洗う → 次亜塩素酸ナトリウムに浸漬 → 使用直前に消毒液から引き上げる
  - c 中性洗剤で洗う → 自然乾燥する
  - d 中性洗剤で洗う → 乾燥機で乾燥する